

平成30年度昭島市障害者地域支援協議会（専門部会）活動報告書（年間報告）

専門部会名称	こども支援部会	部会目標	障害のある子ども達とその保護者への支援	
平成30年度 取組目標	障害のある子ども達と家族のニーズに寄り添い、人権が尊重され、安心安全な生活の中で、もてる可能性を十分に伸ばすことのできる支援の在り方を考える。			
近況報告	10/17 施設見学 放課後等デイサービス （「ピースマイル」、「つむぐ」） 1 /31 学習会「障害児の性を考える」 講師：山本 良典氏（東京都心身障害者福祉センター） 40名参加 福祉人材プロジェクトに参加 地域課題解決プロジェクトに参加			
現状と課題	解決のための方法	実施したこと	今後の課題	
放課後等デイサービスの現状を知って、共通理解を深める。	施設見学を行う。	「ピースマイル」、「つむぐ」を見学	短時間の見学では、特徴をつかむ事は難しかったので、次回はもっと長い時間にするとともに、放デイについて学習が必要。	
保護者からのニーズや思春期のこどもの性について知る。	「性」についての学習会を行う。	山本先生をお迎えして、保護者対象の学習会を実施した。	一回の学習会では、話し切れない事もあり、保護者からももっとやってほしいとの希望が多かった。	
全体会での 協議予定事項			協議予定時期	年 月頃
備 考				

平成30年度昭島市障害者地域支援協議会(専門部会)活動報告書(年間報告)

専門部会名称	就労支援部会	部会目標	障害のあるすべての人の就労ニーズに寄り添い、その人らしい就労生活の実現のためにライフステージに沿ったトータル的な就労支援の充実を図ることを目的とする。		
平成30年度 取組目標	①部会メンバーが関わった就労に関する好事例・失敗事例を持ちより事例検討をおこない、今後の支援につなげる。 ②市役所職場体験実習の対象者等の拡大。 ③部会メンバーの情報共有の仕組みをつくり、より多くの市内事業所および企業、地域が関われるようにする。				
近況報告	●4.26 第1回昭島市役所職場体験実習打ち合わせ ●5.16 新たな事務局体制事前打ち合わせ（黒澤・山崎） ●6.26 第1回昭島市地域支援協議会参加 ●7.9 第2回昭島市役所職場体験実習打ち合わせ ●7.19 昭島市役所職場体験実習事前面談 ●7.25、26 あきる野学園1名、青峰学園2名による昭島市役所職場体験実習 ●7.30 第1回就労支援部会事務局会議 ●8.21 第2回昭島市地域支援協議会参加 ●8.23 第1回就労支援部会 ●8.31 第1回精神障害者就労定着支援連絡会 ●9.20 市役所職場体験実習反省会 ●10.3 第2回「障害福祉の仕事を広めようプロジェクト」参加（黒澤） ●10.18 第3回昭島市地域支援協議会参加 ●10.19 第2回精神障害者就労定着支援連絡会 ●11.7 人材確保PT（黒澤） ●11.12 第2回就労支援部会 ●12.12 人材確保PT（黒澤） ●12.20 第4回昭島市地域支援協議会参加 ●1.15 課題解決PT（黒澤） ●1.23 人材確保PT（黒澤） ●2.13 人材確保PT（黒澤） ●2.19 第5回昭島市地域支援協議会参加 ●2.27 第3回就労支援部会第59回工賃アップ検討部会合同会議 ●2.28 教育福祉総合センター雇用・受注打ち合わせ ●3.2 人材確保イベント「バウムクーヘン」 ●3.12 課題解決PT（黒澤）				
現状と課題		解決のための方法		実施したこと	今後の課題
昨年度同様、部会構成メンバーは、企業・労働・教育・医療・福祉・行政と幅広くまた、所属や支援対象者により、「就労・働く」の考え方や支援内容に差異があり、焦点を絞って深めることができにくい状況にある。また、リーフレットを作成したが、商工会や市内事業所への理解啓発にはまだ取り組めていない。		今年度は取組目標を以下の3点にし、活動することにした。①部会メンバーが関わった就労に関する好事例・失敗事例を持ちより事例検討をおこない、今後の支援につなげる。②市役所職場体験実習の対象者等の拡大。③部会メンバーの情報共有の仕組みをつくり、より多くの市内事業所および企業、地域が関われるようにする。		①事例検討の実施②実習終了後、市内事業所の利用者実習の可能性を検討することができた。③メーリングリストを作成し会議に参加できなくても、情報交流を図ることができた。④地域支援協議会下の人材確保・課題解決PTに関わり、役割を果たした。⑤教育福祉総合センターでの雇用・受注の話を進めた。⑥想定しない形で市内事業所と関われることができた。	多くの人が部会に関わってくださる反面、みんなが集まれる会議のあり方は継続して課題が残る。一度基本に立ち返り、市内の障害福祉事業所で話し合いを持ち、現在抱えている課題や、就労支援部会のあり方について整理をしたいと思う。
備 考	* 市役所職場体験実習3年目である今年度は特別支援学校2校の2年生3名の実習を行い、昭島市役所の本庁舎内にとどまらず、市民図書館や市民会館・公民館などでも実習を行った。市内福祉事業所通所の方への拡大を目指して、今後も検討していく。 * 市内事業所への理解啓発に向けても再整理し、進めていきたい。				

平成30年度昭島市障害者地域支援協議会(専門部会)活動報告書(年間報告)

専門部会名称	当事者部会	部会目標	障害者の社会完全参加と差別のない社会をめざす。		
平成30年度 取組目標	・ 障害者が暮らしやすい昭島をめざし、障害者差別解消を推進するとともに障害者差別解消条例の制定を求めていく。 ・ 全障害当事者が参画できる企画および環境作りをする。 ・ 障害者の視点による権利及び権利擁護の意識を高める。 ・ 障害者の日常生活の質の向上（ＱＯＬ）を図る。 ・ 第５期障害者福祉計画に策定された地域生活支援拠点事業等各種障害者福祉施策の履行を求める。				
近況報告	○「障害者のつどい」３回実施。１回目７月14日34名。２回目９月29日33名。３回目３月９日35名。肢体、視覚、聴覚、精神などの障害者が一堂につどい、日常生活の中で工夫していること、困っていることや障害差別と配慮について懇談した。参加者から好評でした。 ○市長懇談会　２月14日実施　市長に日ごろから感じていることを直接話すことにより意思疎通を図る機会になりました。 ○部会定例会議を毎月開催。地域で障害者が安心して生活していくことへの課題等を掘り起こして解決策を協議している。				
現状と課題		解決のための方法		実施したこと	今後の課題
・ 障害者差別解消にむけて		・ 障害者同士の理解促進 ・ 差別および配慮の事例検討 ・ 一般市民への理解啓蒙促進		・ 障害者のつどいを開催。 ・ 差別と配慮についての事例検討を随時実施。	・ 知的・重心が参加しやすい環境作りが必要。 ・ 障害者差別および合理的配慮に関する学習を深める必要。 ・ 障害福祉課との懇談会の開催が必要。
・ 生活介護要重度障害者の医療的ケアの充実が必要。		既存機能の活用とケア体制の充実を求めていく		地域支援協議会全体会での取り組みを求めていく	
・ 障害者別の機能訓練が必要。		障害者別に有効な機能訓練ができる施設を検索し、公表する。		地域支援協議会全体会での取り組みを求めていく。	既存施設などの社会資源の活用方法を模索していく必要。
全体会での協議予定事項				協議予定時期	年　　月頃
備　考	障害福祉課との懇談を定期的に開催したい。				

平成30年度昭島市障害者地域支援協議会(専門部会)活動報告書(年間報告)

専門部会名称	相談支援部会	部会目標	部会で抽出した課題の解決に向け、具体策を他専門部会と連携しプロジェクトで取り組む。		
平成30年度 取組目標	①事例検討会を開催し地域の課題を抽出、整理を行う。 ②サービス等利用計画様式と計画作成に伴う手続きの合理化の検討。				
近況報告	➤ 今年度は定例会を隔月に開催し、事例検討と地域課題の具体化などの議論を行った。地域支援協議会や自立支援推進協議会の協議事項、各プロジェクト等の進捗状況等、その都度部会長から報告があり、部会全体で情報を共有することができた。 ➤ 事例検討会から課題の抽出を行い、カテゴリー別に分類した。新たな課題も抽出することができ、これまで上がった課題と新たな課題をすり合わせ、地域課題解決PTでも報告を行った。 ➤ 人材確保PT（バウムクーヘン）、地域課題解決PTにもメンバーとして参加をした。 ➤ サービス等利用計画作成についての過程や様式について障害福祉課との検討を重ね、サービス等利用計画・モニタリング報告書の作成から提出までの過程について合理化を図る事ができた。				
現状と課題		解決のための方法		実施したこと	今後の課題
➤ 市内の社会資源の不足は長年の検討課題となっており、特にホームヘルパー、生活介護、短期入所の不足によりサービスの提供が困難となっている。		➤ 各部会が連携をとりながら、優先順位を決め地域課題の解決に向けての具体策の検討をしていく。 ➤ 事例検討の積み重ねを行い地域課題を抽出し、必要な資源や具体策等を今後も相談支援部会から協議会等に挙げていく。		➤ 市民向けに障害理解と福祉人材確保を目的としたイベントの開催に向け、毎月打ち合わせと準備を行った。2019年3月に福祉人材確保イベント『バウムクーヘン』を開催した。 ➤ 課題解決PTに相談支援部会メンバーが参加し、地域課題解決に向け具体策を検討している。 ➤ 事例検討会を通して地域の課題を抽出し、整理とまとめを行った。	➤ 継続してイベントを開催する事で市民の方々に障害福祉について興味を持ってもらい、人材確保に繋げていきたい。今回の開催を踏まえ、より人材確保につながるイベントにするための検討は必要。 ➤ 基幹相談支援センターと地域生活支援拠点の整備について、どのような機能が必要かを検討し、今後の動向を確認していく。 ➤ 災害時安否確認システムの構築。
全体会での 協議予定事項				協議予定時期	年 月頃
備 考					

平成30年度昭島市障害者地域支援協議会(専門部会)活動報告書(年間報告)

専門部会名称	自立生活支援部会	部会目標	障害のあるすべての人のニーズに寄り添って、その人らしい地域生活が実現できるように、ライフステージに沿ってトータルの生活支援の充実を図ることを目的とする。	
平成30年度 取組目標	障害のあるすべての人のニーズに寄り添って、その人らしい地域生活が実現できるように、ライフステージに沿ってトータルの生活支援の充実を図ることを目的とする。昨年度の生活支援部会と日中活動部会の各課題事項について、引き続き解決に向けて取り組んでいく。			
近況報告	○準備会：4月12日・5月23日・6月19日・7月5日（生活支援部会・日中活動部会のコアメンバーで、新部会についての話し合い） ○部会開催：7月11日・9月12日・12月5日・2月20日（ヘルパーチーム・医療ケアチーム・プロジェクト担当の人選・協議及び報告・地域課題の抽出・情報共有） ○ヘルパーチーム：7月20日・8月10日（こども支援部会、相談支援部会と合同で、ヘルパーの人材確保についての話し合い） ○人材確保プロジェクト：9月11日・10月3日・11月7日・12月12日・1月23日・2月4日※体験ブース・2月13日（障害福祉の仕事を広めるイベントの企画会議） 3月2日（イベント「バウムクーヘン」開催）・3月27日（イベント報告） ○医療ケアチーム：8月21日・10月18日（情報収集・課題整理） ○見学会：9月7日社会福祉法人滝乃川学園（東京都重症心身障害児（者）通所事業の、地域施設活用型） ○地域課題解決プロジェクト：1月15日・3月12日			
現状と課題		解決のための方法	実施したこと	今後の課題
1．ヘルパーの人材が不足しているため、利用者が十分なサービス量を利用できていない。 2．障害福祉の現場に入職した、福祉未経験者の早期離職が多い。 3．障害から手を引いていくヘルパー事業所が増えてきている。 4．特別支援学校に通う、医療的ケアが必要な方の、卒業後の日中活動の場が市内にない。		1．市民に障害福祉の仕事を知ってもらうためのイベントを企画する。 2．障害支援を学ぶ研修等を企画する。 3．障害分野のヘルパーの報酬改定 4．東京都重症心身障害児（者）通所事業の基準等を学んでいき、医療ケアが可能な事業所の設置を提案する。	1．他部会と合同で、平成31年3月2日に、あいぽくにて、障害福祉の仕事を広めるイベントを開催した。 2・3．部会にて情報交換。 4．東京都重症心身障害児（者）通所事業を行っている滝乃川学園の見学をさせてもらい、地域施設活用型の現状等を確認した。	1・2．引き続き、市民が関心をもって集まれるようなイベントの企画や、障害支援を学ぶ研修会を実施する必要がある。 3．ヘルパー事業所の現状の情報を集積する。 4．昭島市の拠点事業や資源整備などの動向を確認しながら、事例や、現状の課題についての意見交換を中心に行い、地域課題解決プロジェクトに挙げていく。
全体会での 協議予定事項			協議予定時期	年 月頃
備 考				

平成30年度昭島市障害者地域支援協議会(専門部会)活動報告書(年間報告)

専門部会名称	防災部会		部会目標	昭島市から死者を出さない
平成30年度 取組目標	① 総合防災訓練の参加 ・要援護者用物資の展示 ② 福祉避難所(あいぽっく)の開設訓練と運用方法 災害発生時避難所であるとともに、要援護者支援のセンターであることの位置づけ ③ 高齢者福祉センター・市立会館・老人ホーム等の運用について ④ 要援護者の必要物資の確保			
近況報告	4月 2日	① 活動計画策定 ② 学校避難所運営委員派遣名簿作成 ③ 役員選出		
	6月11日	① 昭島市総合防災訓練について ② 学校避難所運営委員会の動向 ③ 防災備蓄品の拡充と管理の精査 ④ 要援護者名簿作成の進捗状況		
	7月30日	① 昭島市総合防災訓練について ② 地域福祉ネットワークと災害時の協力協定について ③ 西日本の水害についての情報		
	8月26日	昭島市総合防災訓練に参加(東小学校)		
	10月15日	① 総合防災訓練の振り返り ② 要援護者の必要物資の確保 ③ 要支援者名簿の進捗状況 ④ 福祉避難所(あいぽっく)について ⑤ 高齢者福祉センター・会館・老人ホーム等の運用について		
	12月17日	① 要支援者名簿の進捗状況 ② あいぽっくの福祉避難所の活用について ③ 防災部会の委員構成について		
	2月18日	① 学校避難所運営協議会の当事者・家族委員の関わりについて ② 当事者・家族委員と防災部会の懇談会について ③ 防災部会委員拡大について ④ 2019年度の活動について ⑤ あいぽっくの福祉避難所の活用について ⑥地域課題一覧(課題整理シート)の検討		
現状と課題		解決のための方法	実施したこと	今後の課題
昭島市総合防災訓練に参加		防災課と連携する	8月26日に参加した。	猛暑の中では、参加人数が少数になってしまった。市としても開催時期の変更を検討している。
要援護者支援		要支援者名簿の進捗状況の確認 要援護者の必要物資の検討	名簿については関連課と 随時確認した。 物資については部会内で 随時検討した。	・名簿の作成は終了したが、災害発生前の活用については、個人情報の兼ね合いと自治会単位の活用に焦点が移ってきている。 ・必要物資には、個々のニーズを顕在化する作業が必要。
福祉避難所(あいぽっく)について		発災時直後からの避難所として開かれる事	障害福祉課と議論を重ねた。	・発災後に薬事センターとして機能することが判明した。 ・避難所の機能もボランティアが運営する見通しで懸念が残る。

学校避難所・高齢者福祉センター・会館・老人ホーム等の運用について	学校避難所運営委員会当事者・家族委員の確認と意識統一	同委員の確認作業	・防災部会と同委員の懇談会を企画し意識の統一を図る。 ・福祉避難所の機能の確認 ・学校避難所のマニュアル見直し（要援護者受け入れを周知する） ・災害発生時からの時間経過による分類 ・学校以外の避難所運営マニュアルの策定 ・学校避難所（一時避難所）での、要援護者の振り分け ・学校避難所運営委員会の進捗状況等の情報共有
地域防災計画(要配慮者対策・福祉避難所)の検討	要支援者の課題の検討と運用の検証	部会へ防災課が参加	・要援護者避難計画（個別計画支援計画の促進） ・自治会・民生委員との連携 ・平時の周知の工夫（障害特性やそれに応じた支援方法等をまとめた小冊子（障害者差別解消法のパンフレットを避難所の管理責任者に配布するなどの有効活用等）や、学校の防災訓練に組み込む等
全体会での協議予定事項		協議予定時期	
備 考	・防災課・障害福祉課だけでなく、広く関係機関・団体からの情報収集と参画を呼びかける		